

第3章 わかやまの自然と生活



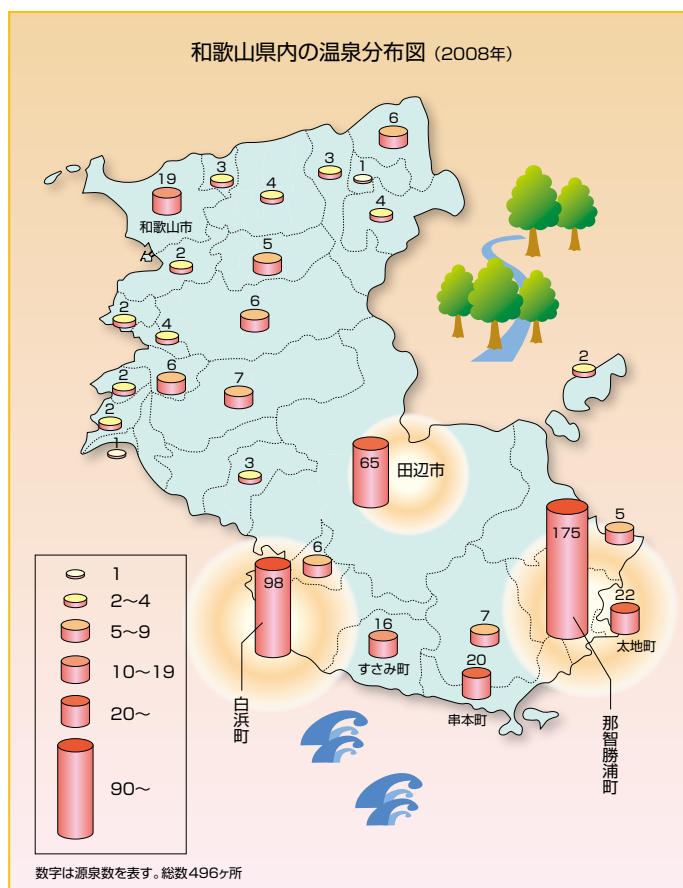
海と山の湯の町



和歌山県の温泉

和歌山県には温泉の数が496カ所（2008年調べ）とたくさんあります。県内30市町村のうち、御坊市と印南町以外の市町村に温泉がわいています。泉源が1つしかないところもあれば、那智勝浦町のように175もあるところもあってその分布はさまざまですが、紀南に多いのが特徴です。また、25℃以上の温泉は紀南に多いのに対し、紀北は25℃以下のところが多いのも特徴の1つです。温泉は生き物のように新しくわき出るところもあれば、かれて出なくなるところもあります。また命の長い温泉も短い温泉もあります。

和歌山県には火山はありませんが、今から1,400万年前にできた火成岩が紀南に多く、その時の火山活動のなごりの熱が地下水を温めていると考えています。これが、勝浦・湯川・川湯・渡瀬・白浜・椿などの温泉になって現れていると考えられています。



白浜温泉の源泉のやぐらと白良浜ホテル群（白浜町）

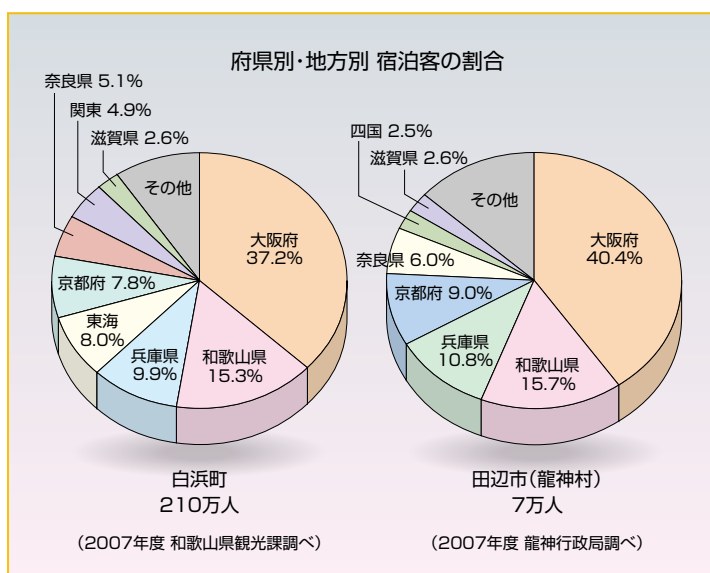
海の温泉 白浜

白浜の温泉は、奈良に都が移る前、^{さいめい}齊明・^{じとうてん}持統天皇などが訪れた古い歴史を持つ温泉ですが、その温泉とは「牟婁の湯」といわれた湯崎のことです。大正時代の終わりのころ白良浜近くで温泉を掘り当て、観光旅館が建ち並ぶようになりました。やがて日本三大古湯として知られていた湯崎温泉と1つになり、白浜温泉として急速に観光地へと発展しました。現在白浜には55本の源泉と9社の温泉会社があります。48℃～83℃の湯は、38軒のホテルや旅館、

* 1 湯崎温泉は、「日本書紀」にある兵庫県の有馬温泉、愛媛県の道後温泉とともに「日本三大古湯」といわれている。

地元民家にパイプで配られています。

白浜温泉には、長さ620mのまっ白い砂浜が広がる白良浜や円月島・三段壁・千畳敷・平草原など景色に恵まれ、また大型のレジャー施設もたくさん建っています。1968（昭和43）年開港した南紀白浜空港は1996（平成8）年にジェット機の発着ができるようになり、東京からも速く快適に來られるようになりました。さらに、2007年に高速道路が田辺まで南進したため便利になって、全国各地から年間300万人が訪れ、内210万人が宿泊していますが、最近では外国からの観光客も増え、約3万人の宿泊客があります。



山の温泉 龍神

白浜が海岸部を代表する温泉なら、山間部を代表するのが龍神温泉です。

日高川の溪流ぞいにある龍神温泉は、役行者や弘法大師が掘り当てたという伝承があり、紀州初代藩主徳川頼宣も訪れたゆかりのある古い温泉です。おおぜいの湯治客が龍神街道を通って訪れたので、江戸時代半ばには温泉宿が19軒もありましたが、今は6軒です。1955年ごろから、全国的な温泉ブームがおこり、「秘境」の温泉として龍神温泉が紹介され、有名になりました。1980年高野龍神スカ



龍神温泉（田辺市龍神村）

イラインの開通、田辺と結ばれている虎ヶ峰越えの道路整備などが進み、訪れやすくなりました。宿泊客は年間約7万人で、観光客60万人のうちわずか11.7%に過ぎません。

この温泉は48℃のナトリウム・炭酸水素塩泉で、お湯につかれば肌がすべすべになる効能があり「日本三大美人湯」の1つともいられています。自然が豊かで、新緑の初夏、鮎釣りの夏、紅葉の秋が観光シーズンとなっています。



徳川頼宣ゆかりの旅館（田辺市龍神村）

* 1 役小角ともいい、7～8世紀の山岳信仰の修験者のこと。